

# 世界遺産 勝連城跡

2000年「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として世界遺産に登録された勝連城跡。頂上から見渡す360度の絶景パノラマと城壁の曲線美は訪れた人を魅了します。国内で初となるローマ帝国のコインが出土するなど、歴史遺産としての期待度もさらに高まっており、県内有数の観光スポットとなっています。沖縄最古のグスクで10代目城主、阿麻和利の居城として有名です。



世界遺産  
勝連城跡

## 琉球王国時代を今に伝えるグスク跡

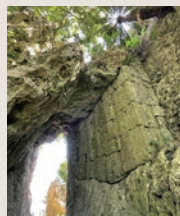
各地域の有力な首長(按司・あじ)が居住していたのが「グスク」(城)です。規模や形状はそれぞれ異なり、琉球王国時代を今に伝える貴重な遺跡です。残念ながら多くは戦争で破壊され、一部だけが残されています。

沖縄本島中部、勝連半島にある勝連城は、15世紀の琉球王国の王権が安定していく過程で、国王に最後まで抵抗した有力な按司、阿麻和利(あまわり)の居城。中国を始め、東南アジア、日本本土との海外貿易を行い、繁栄を極めました。

城は、四方に展望のきく比較的傾斜の急な孤立丘を取り込んで築かれ、外敵をいち早く確認できることや、南側に良港を控えていることなど、きわめて良好な立地条件を備えています。

勝連城跡の最も高い所となっているのが「一の曲輪」。勝連城が栄華を誇った時代には、アーチ門が設けられていました。そこからの眺望は雄大で、勝連地域一帯を眼下にし、北側には北部に連なる山々を、南側には知念半島が海に広がる全景をとらえられます。

うるま市にはそのほかにも、大川按司の居住跡で円錐丘を囲んで築城された「安慶名城跡」、標高80mの高台に築城された「伊波城跡」が残されています。その地を訪れて、いにしへの時代に思いを馳せてみるのもいいのでは？



安慶名城跡

## あまわりパーク 歴史文化施設

世界遺産勝連城跡の出土品や勝連城跡を中心とするうるま市の歴史や文化についての展示は勿論、勝連城10代目按司、阿麻和利の物語を躍動感のある演技で伝えるライブパフォーマンスも楽しむことが出来ます。大人も子どもも、楽しみながら学び体験することができ、勝連城跡登城前のわくわく感を高めることが出来る新感覚ミュージアムが誕生しました！



肝高(きむたか)…沖縄最古の歌謡集「おもろさうし」で見られる古語で、「心豊か」「気高い」などを意味する。



世界遺産  
勝連城跡

## 勝連城にまつわる物語 現代版組踊「肝高の阿麻和利」

うるま市の中学、高校生が出演している現代版組踊「肝高の阿麻和利」。沖縄の伝統芸能「組踊」をベースに、現代音楽とダンスを取り入れ、「阿麻和利」の半生を描く、「沖縄版ミュージカル」。世代交代をしながら進化を続け、全国へ肝高き心を発信しています。

### あらすじ

勝連城最後の城主・阿麻和利の半生を描いた舞台。舞台は、真夜中の勝連城跡。学校内では、「幻の村祭り」なるものが噂になっていた。それを確かめるため、城跡に忍び込んだ子ども達。突如雷鳴の中から現れた「肝高神」から渡された巻物には「阿麻和利の乱」の真実が書き記されていた。阿麻和利とは、一体どんな人物だったのか？肝高の子たちは、巻物の内容を読み解くうちに、当時の勝連にさかのぼり、歴史の闇に閉ざされた英雄・阿麻和利の姿に近づいていく…

阿麻和利は長い間、反逆者としての評価を受けていました。しかし近年では、「おもろさうし」に認められるように、勝連に繁栄をもたらした英雄として改めて評価されるようになりました。うるま市には「肝高」の心を今に引き継ぎ、後世へと伝えていく子ども達の取り組みが続けられています。それが「肝高の阿麻和利」です。

### あまわりパーク料金表

勝連城跡 常設展示室	大人	個人	600円
	※高校生以上	団体 ※20人以上	480円
常設 展示室	小人	個人	400円
	※中校生以下	団体 ※20人以上	320円
常設 展示室	大人	※高校生以上 400円	
	小人	※中学生以下 200円	

ライブパフォーマンス  
公演※土日祝のみ 11:00~11:30 13:00~13:30 15:00~15:30

6歳未満無料/うるま市内小中学生無料

あまわりパーク歴史文化施設

《開館時間》午前9時~午後6時 ※入館は閉館30分前まで  
《休館日》年中無休

※不定期にメンテナンスなどが生じた際に臨時休館となることもございます



## これからのあまわりパーク

世界遺産に登録された勝連城跡は、歴史文化とのふれあいなどを目的とし、「イベント空間」や「ショップ、レストラン」「勝連城跡公園」が整備される予定となっています。